

## 誰でもできる楽しいダンスをめざして ダンスラボラトリーの取組



### ■目標は、東京パラリンピックでダンス参加

ダンスラボラトリー（以後「同会」と略します）は障がいがある、あってもなくても「誰でもできる楽しいダンス」を合言葉にダンスを中心に活動している団体です。放課後等デイサービスや寺子屋授業でワークショップ等を開催しており、地元川崎や神奈川・東京・埼玉等で開催するイベントで出演依頼があれば協力しています。メンバーであれば出たい人は誰でも出演することを基本としています。

2年続けて「かわさき市民活動センター」で開催された「ごえん楽市」のオープニングでダンスを披露しました。



▲「ごえん楽市」のオープニングに出演したダンスラボラトリーのみなさん

2018年3月現在、会員数は約100名です。同会を設立したのは、障がい者の保護者の集まりで、2014(H26)年6月に設立され、NPO法人として認証されたのが2017(H29)年3月です。2020年東京パラリンピック・エキシビジョンにダンスでの参加を目標にしています。

### ■ダンスで未来を広げる

同会代表の園部由美さんは、6月17日(日)高津市民館で開催される「高津どんなんもんじゃ祭」の副実行委員長として携わっており、同会はダンスで出演する予定です。



▲園部由美さん

娘さんはダンスアシスタントの一人として団体に所属し他のメンバーと共に交



友関係を広げ、多くの人たちとの関わりを大切にしています。そのような日々の関わりを自分自身の未来に繋げて欲しいと、園部さんは話します。

### ■励ましの「がんばれ!」コール

3月29日、高津老人福祉・地域交流センターで毎週行われている同会の木曜日クラスのダンス教室を見学しました。1部は17時から「誰でも楽しめるストレッチ&ダンス」、2部は18時から「HIPHOPやブレイクダンスを中心のダンス教室」を行っていました。1部の前半では、講師のレイナ先生が、理学療法士の指導の元で療育を兼ねたプログラムにそって、ていねいに手や足の指を1本ずつ屈伸したり、関節をやわらかくしたり、手の甲のマッサージ等しながら入念に準備運動をすすめていました。

後半は、ダンスの振付けの練習をまとまり毎にひとつひとつ区切りながら練習した後、曲に合わせて踊り始めます。早いテンポについていけず落ち込んで座り込むメンバーの周りに7~8人の輪ができ、「がんばれ!」

「がんばれ!」のコールが起こりました。その励ましの声を聴き、落ち込んでいたメンバーは、また立ち上がり練習を再開しました。心がほっこりとあたたかくなる光景でした。



▲各自が表現する2部の練習の様子

休憩時間には、床に前屈姿勢をして、体の柔軟さをみんなで競い合っていました。

2部の講師のマティス先生は、参加メンバーの個性を大切にしながら練習をすすめていました。

### ■ダンスの力を信じて

レイナ先生は、「ダンスの指導を通して、教室に通う同会のメンバーが技術も向上し自信をつけてきていること」「練習を重ねることにより仲間同士の関わり合いが深まっていること」また、「日々のダンスレッスンから言葉がなくても交流の持てるダンスの力を信じ、一人ひとりにきちんと向き合える関係を築いていこうと思っている」と話します。この日は、教室終了後、ダンスラボラトリーのスタッフミーティングがあり、講師の先生たちが来所していました。



▲ダンスラボラトリー講師の先生たち  
左がレイナさん、右がマティスさん

■ 問合せ 園部 由美さん TEL 080-2068-9343